



生物多様性センターと茨田堤跡見学 例会報告

1: 日時 2023年6月29日(木)

2: 集合 10時30分京阪大和田駅改札口

3: 参加者 22名

4: 行程 大和田駅～大和田駅構内出土3銅鐸説明板～堤根神社・伝茨田堤跡～大和田駅＝寝屋川市駅(周辺の食堂・レストランで各自昼食)・・・太間公園～生物多様性センター(講義と館内・構内見学)～「茨田堤」の碑～「衫子(ころもこ)絶間跡碑」～

15:40太間公園【解散】 (=電車 ...バス ~徒歩)



当日は梅雨の晴れ間の1日で、「お久しぶり！」の挨拶がかわされましたね。

堤根神社ではまず6月の行事、茅の輪くぐりをしました。神社の裏で伝茨田堤跡を見ました。仁徳天皇の時代、淀川の築堤は困難を極めました。天皇への夢の告げは、二人の人柱を立てよとのこと。武蔵の国の強頸(こわくび)と河内の国の衫子(ころもこ)が選ばれました。強頸は素直に命を捧げ、衫子は瓢箪を使った機転で命を全うしました。日本書紀・古事記の記事を、福嶋(昭)さんの解説で1500年以上前の出来事が身近に感じられました。「神に本当の力があるなら瓢箪で示せ」という衫子の命に対する執念は歌舞伎の一場面を観ているような迫力を感じました。神社入口の鳥居の方に戻ろうとすると、ゆかりの瓢箪が、のどかにいくつも棚で揺れていました。

生物多様性センターでは、田中勇氣氏による講義を聴きました。「生物多様性とは何か」と「淀川の淡水魚」の2題でした。

「多様性」の講義では、①生物多様性の意味と意義 ②生物多様性の3つの階層 ③生物多様性の4つの危機。

「淀川の淡水魚」では、①淀川の淡水魚の豊富さと固有種の比率の多さ、②イタセンパラ(板鮮腹)の保護活動。など詳しくお話をいただきました。

その後、屋内水槽の淀川水系の淡水魚、特にイタセンパラを観察。

さらに、田中勇氣氏に案内され、構内の野外に出て、①ビオトープ池 ②水辺植物園 ③かめとコイの池 ④生物季節観測の標本木園を観察しました。

帰りながら、また別の茨田堤の伝承地も見て、ふと私は、茨田の堤が築かれたころの淀川水系の生物多様性はどんなだったのだろう?と思いを巡らせていました。

Aグループ 森



堤根神社裏の伝茨田堤跡



堤根神社の瓢箪



ニホンイシガメ



クサガメ



講義を聴く(生物多様性センター)



生物多様性センター
構内のビオトープ池